

苦難の中の信仰と愛

神の不思議な導きによってアジアからヨーロッパに渡ったパウロ一行は、マケドニア第1の町フィリピで力強い宣教を開始した。異邦人の商人リディアが救われ、占い女が悪霊の呪縛から解放され、さらに不当な投獄という逆境に直面する中でローマの獄吏が回心するということが起った。こうしてパウロによるヨーロッパ最初の教会がフィリピに誕生した。

フィリピを後にしたパウロとシラスは（ルカとテモテはフィリピに留まったようにみえる）次の町テサロニケに向かった。テサロニケはマケドニアの首都で、当時すでに人口12万を越す大きな町で、そこにはユダヤ人会堂もあった。例によってパウロは会堂に行き、三日の安息日にわたって、旧約聖書に基づき、メシアの受難と死と復活は旧約における預言の必然的な成就であること、十字架にかかり、よみがえられたイエスこそキリスト（メシア）である事を力強く説明しまた論証した。

その説教は聖霊による熱烈な説教だったように見える。彼は、後にテサロニケの教会に宛てた手紙の中で語っている、「わたしたちの福音があなたがたに伝えたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。わたしたちがあなたがたのところで、どのようにあなたがたのために働いたかは、ご承知のとおりです。そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者となったのです」（1:5, 6）。

彼自身、その時の福音宣教は「力と聖霊と強い確信に満ちた」ものであったというように、その結果、会堂に属する少数のユダヤ人と、ユダヤ教に帰依していた大勢のギリシャ人がパウロに従い、キリストを受け入れ信者となった。パウロ一行は改宗者ヤソンの家を根拠に伝道を展開した。

ところが、パウロの熱烈な伝道によってユダヤ人のみならずユダヤ教に帰依して会堂の常連となっていたギリシャ人のほとんどがパウロについて行ったのを見て、テサロニケのユダヤ人主流派は激しく怒った。彼らにとって十字架にかけられた人が神の約束されたメシアであると説くパウロの教えは神を冒瀆し、ユダヤ人社会を混乱させる異端の徒であると思われた。

そこで彼らは、町の広場にたむろする人々を抱き込んで煽動し、ヤソンの家を襲いパウロとシラスを民衆の前に引っ張り出そうとした。しかし、二人を見つけることが出来なかったのも、ヤソンと数人の信者を捕らえ、市当局に彼らを、ローマ皇帝支配に反対し、社会を騒乱させようとする危険分子であるとして告訴した。

結果的に彼らは保釈金を払って釈放されたが、パウロとシラスの身の安全を心配したテサロニケの信徒たちは、二人を夜の間次町のベレヤへと送り出した。ベレヤのユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直で、非常に熱心にパウロの教えを学び、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。その結果、多くのユダヤ人、さらに貴婦人を含む多数のギリシャ人が福音を受け入れてキリスト者となった。

こうしてベレヤにもキリストの教会が誕生した。生まれたばかりの教会には多くの困難があったが、テサロニケとベレヤの教会は困難な状況の中で信仰においても愛においても立派に成長し、フィリピの教会とともにパウロの喜び、誇りとなった（第1テサロニケ2:19参照）。